

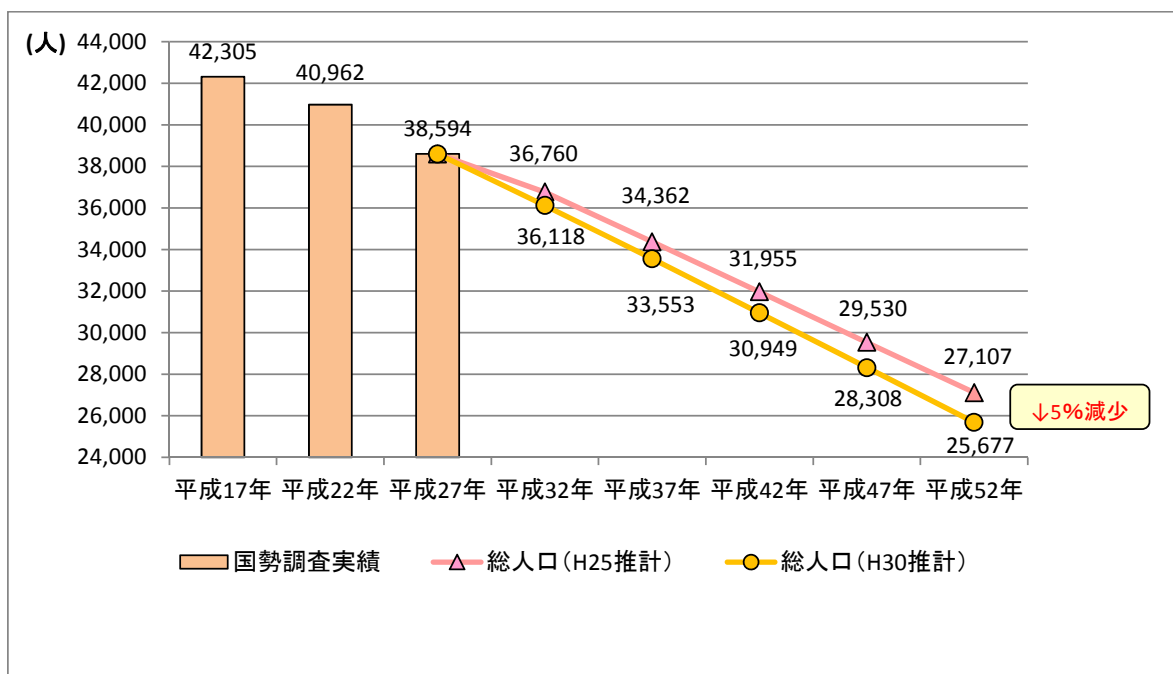
## 参考資料

### 1. 国立社会保障・人口問題研究所による将来人口推計の変化

「いすみ市公共施設等総合管理計画」では、平成25年3月に公表された国立社会保障・人口問題研究所による試算データをもとに、いすみ市全体の将来人口は平成52（2040）年に27,107人になるとしました。

その後、平成27年の国勢調査をもとに、平成30年に上記研究所より公表された将来人口推計では、平成52（2040）年のいすみ市の将来人口を25,677人と予測しています。（H25推計より5%減）

今後の公共施設再編にあたっては、さらなる人口減少の可能性も視野に入れ、考えていく必要があります。



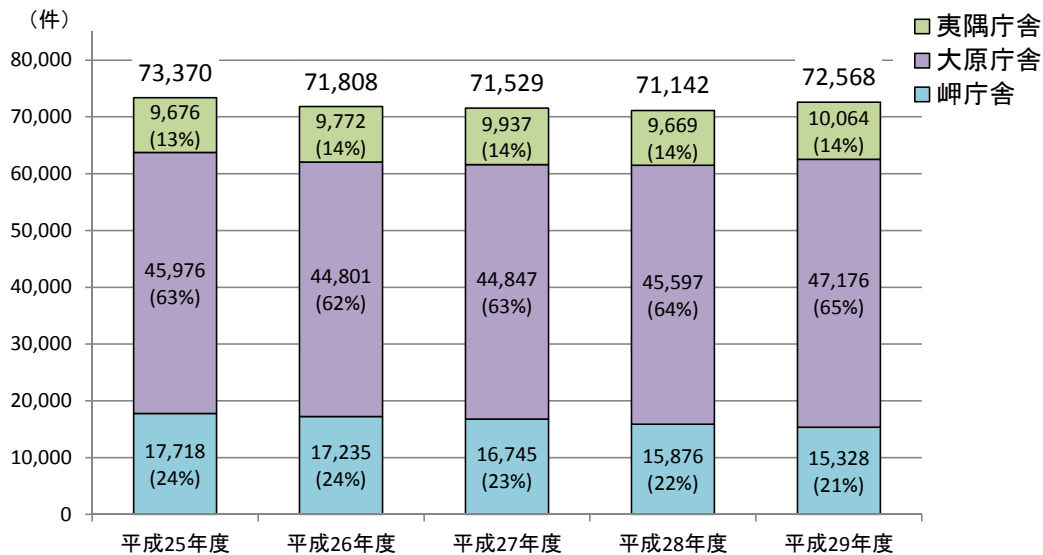
出典：国立社会保障・人口問題研究所

## 2. 公共施設の利用状況

### (1) 行政系施設

#### ○ 証明書年間発行件数の推移（平成 25～29 年度）

年間の発行件数は 7 万件台で推移しており、そのうち大原庁舎が 6 割以上を占めて推移しています。岬庁舎の発行件数は減少傾向にあり、5 年間で 13%減少しています。

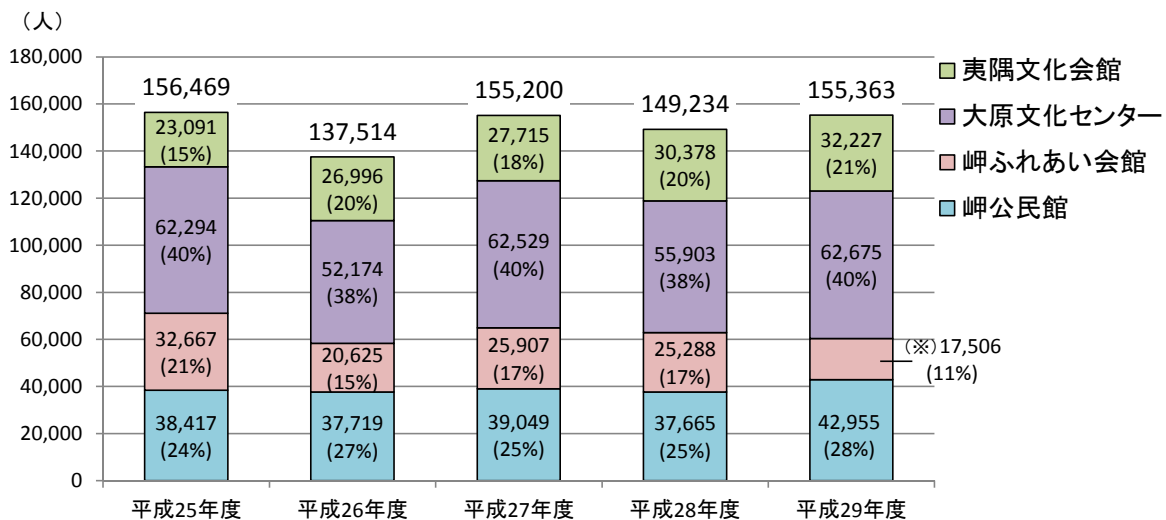


### (2) 市民文化系施設

#### ア. 文化会館・公民館

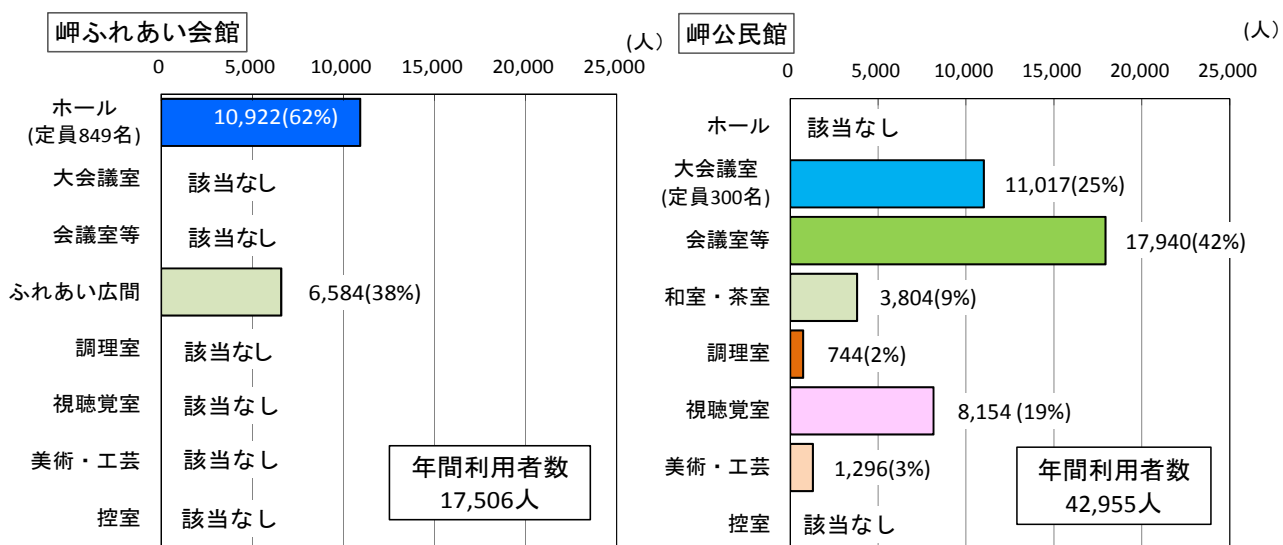
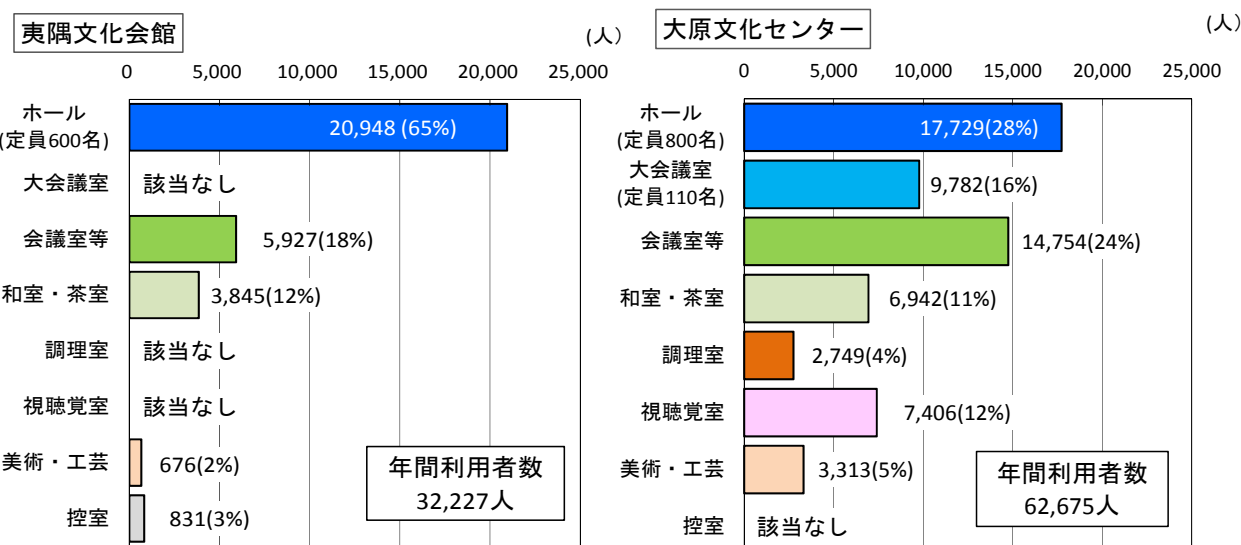
#### ○ 利用者数の推移(平成 25～29 年度)

平成 29 年度の 4 施設の利用者は 15.2 万人です。岬ふれあい会館は平成 26 年度に浴場を廃止したため一旦利用者が減少、その後増加傾向にありましたが、平成 29 年度は災害による施設の利用停止期間があったため(※)、再び減少となっています。



○ 機能別の利用者数（平成 29 年度）

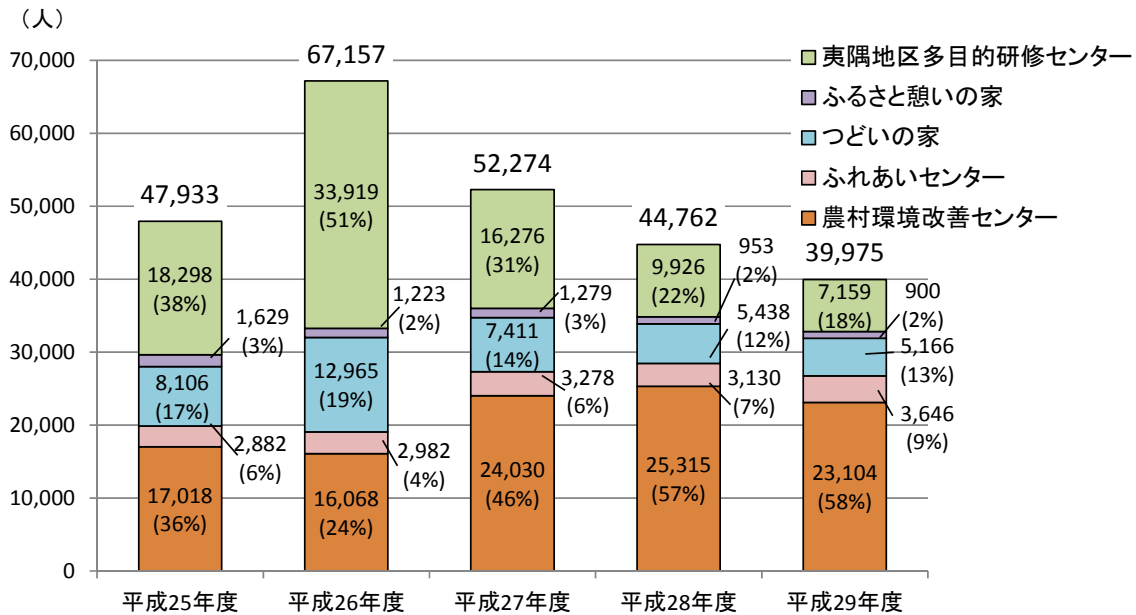
ホールの利用者は夷隅文化会館が 2.1 万人と最も多くなっており、大原文化センター、岬ふれあい会館の順で利用されています。



## イ. 集会施設

### ○ 利用者数の推移(平成 25～29 年度)

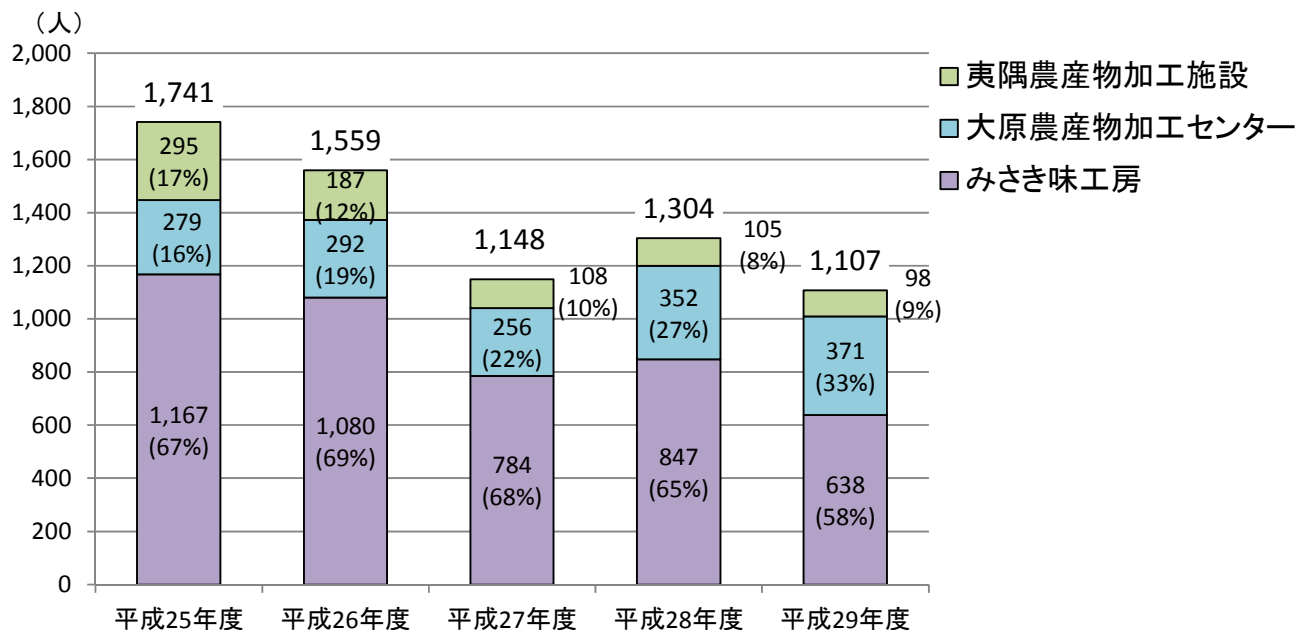
夷隅地区多目的研修センターは平成 26 年度をピークに利用者が減少しています。農村環境改善センターの利用者数は 2 万人前後で推移しています。ふるさと憩いの家の利用者は減少傾向にあり、平成 28 年度は千人を下回りました。



### (3) 産業系施設

#### ○ 利用者数の推移(平成 25～29 年度)

みさき味工房が各年ともに利用者数が最も多く、6割前後を占めています。平成 25 年度をピークに利用者数は減少傾向にあります。大原農産物加工センターは、利用者数が増加傾向にあり、平成 29 年度には利用者数が 371 人と過去 5 年間で最も多くなっています。

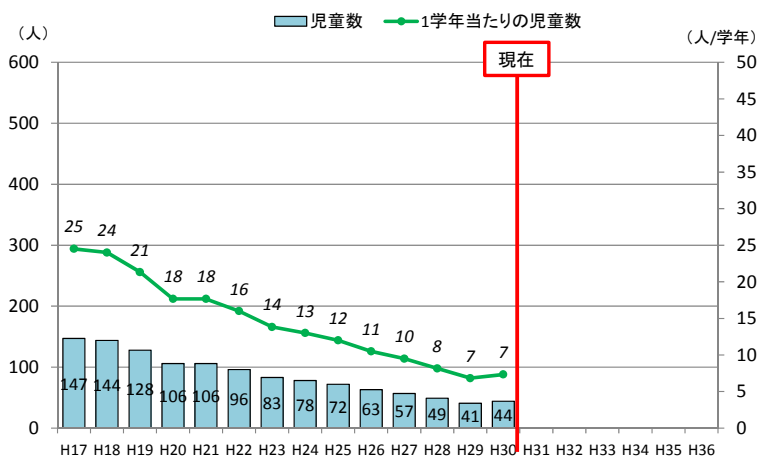


#### (4) 学校教育系施設

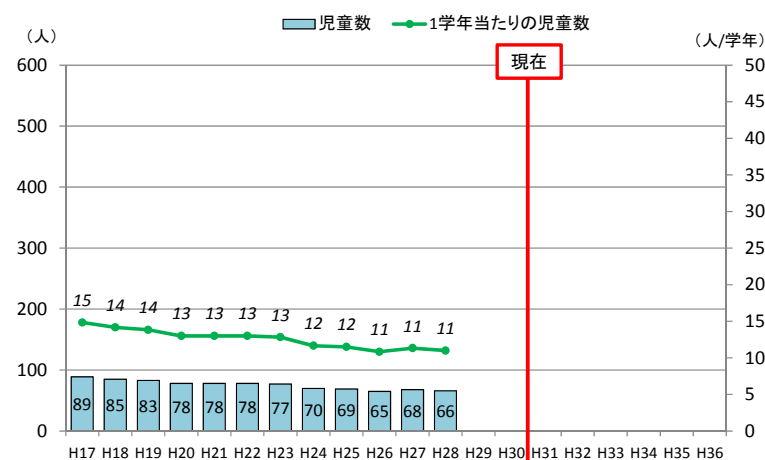
○ 学校別児童・生徒数の推移と1学年あたりの平均児童・生徒数（平成31年度から平成36年度推計）

東小学校、浪花小学校、中根小学校、古沢小学校では、1学年あたりの平均児童数が10人台となっており、今後、複式学級が発生することが予想されます。東海小学校や長者小学校、太東小学校も30人程の規模となっており、今後適正規模の検討が必要になることが予想されます。

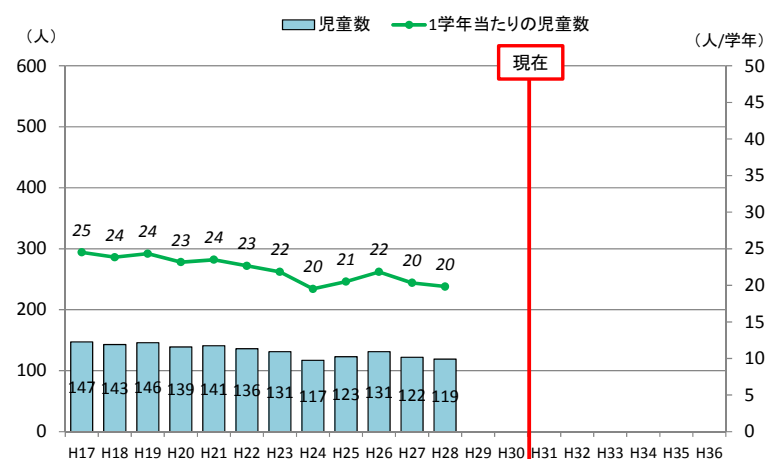
【千町小学校】（平成31年度より夷隅小学校に統合）



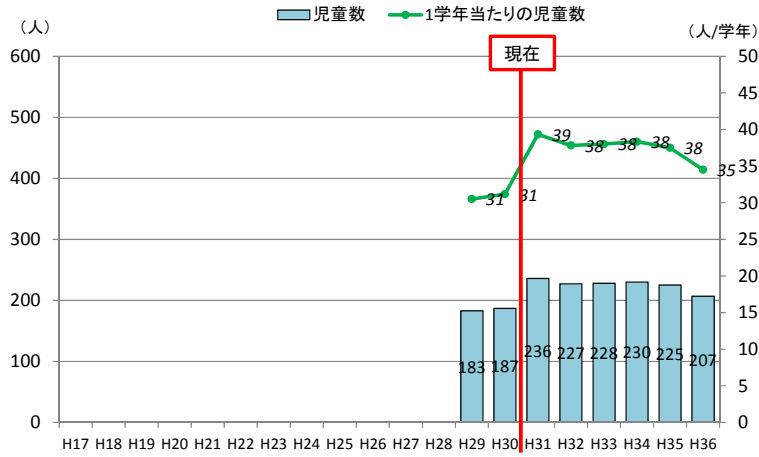
【中川小学校】（平成29年度より夷隅小学校に統合）



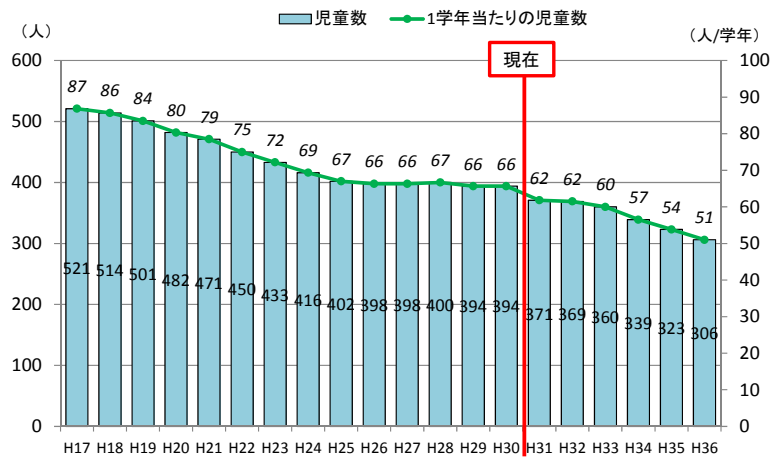
【国吉小学校】（平成29年度より夷隅小学校に統合）



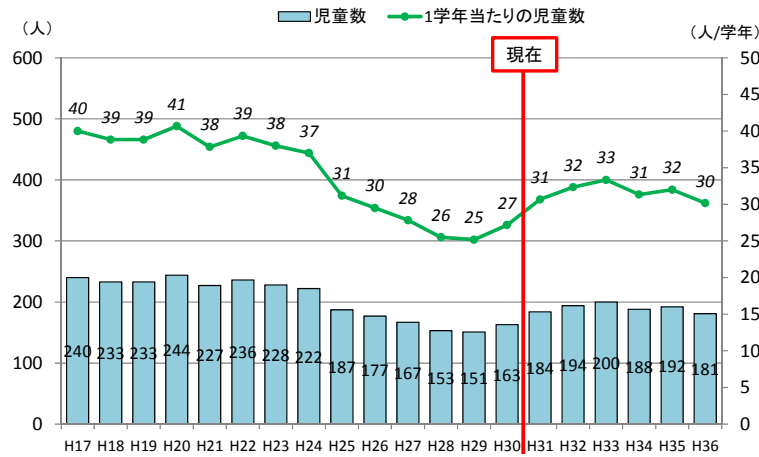
【夷隅小学校】



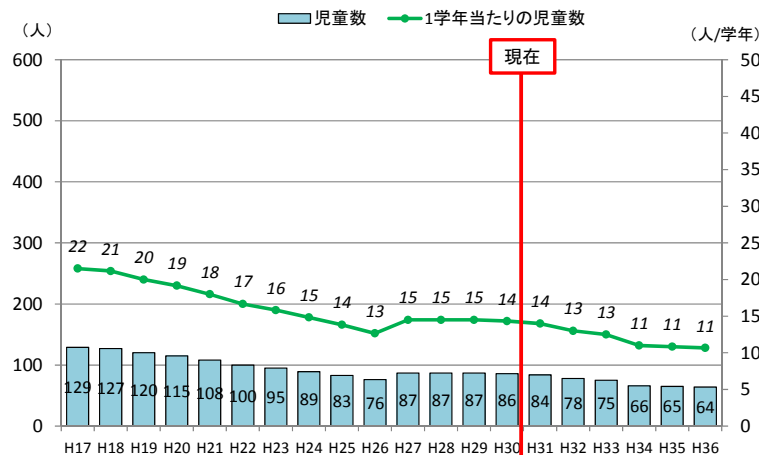
【大原小学校】



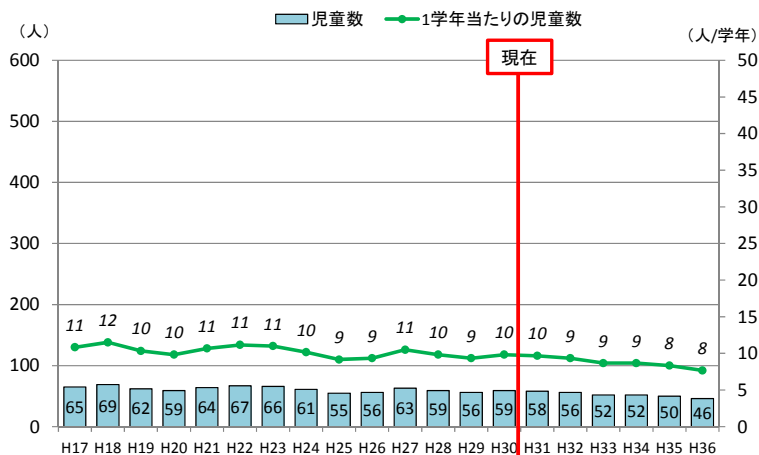
【東海小学校】



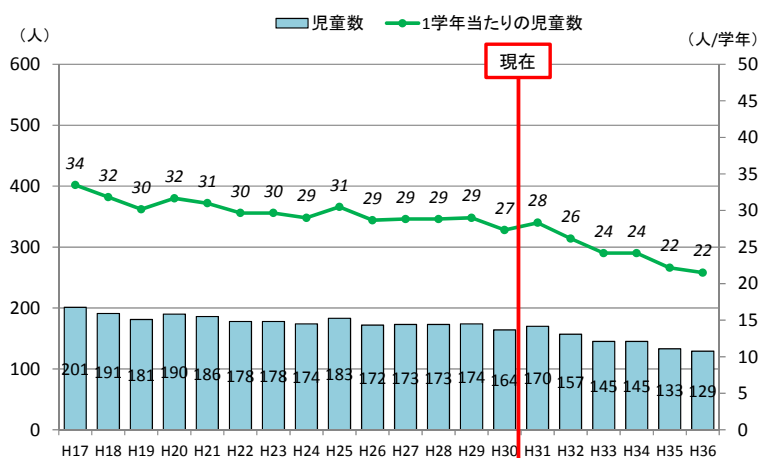
【東小学校】



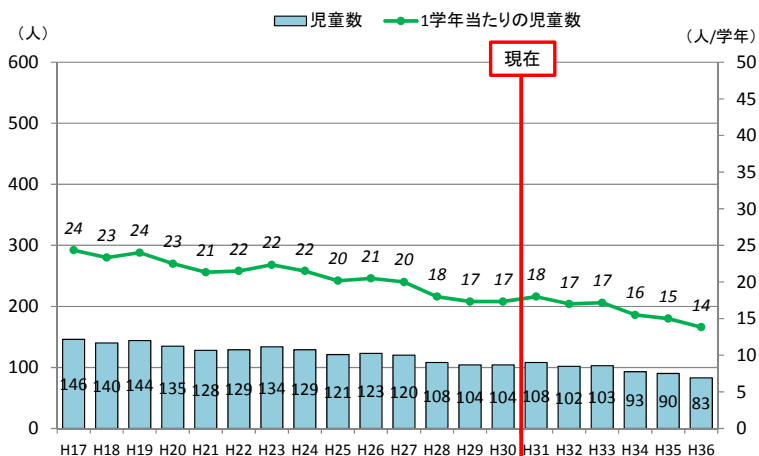
【浪花小学校】



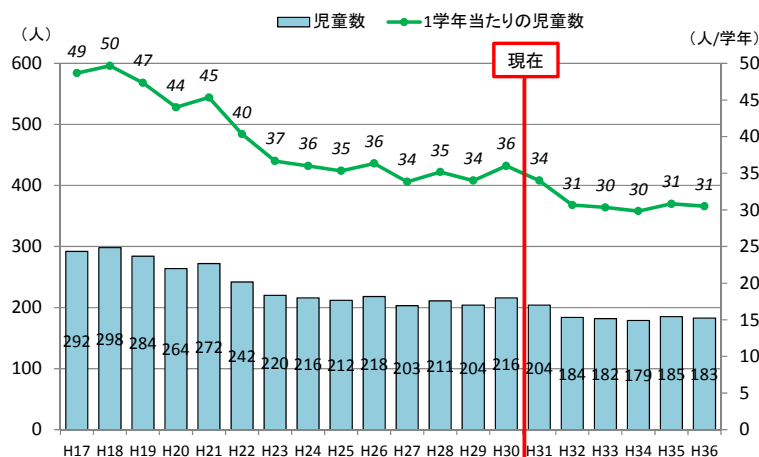
【長者小学校】



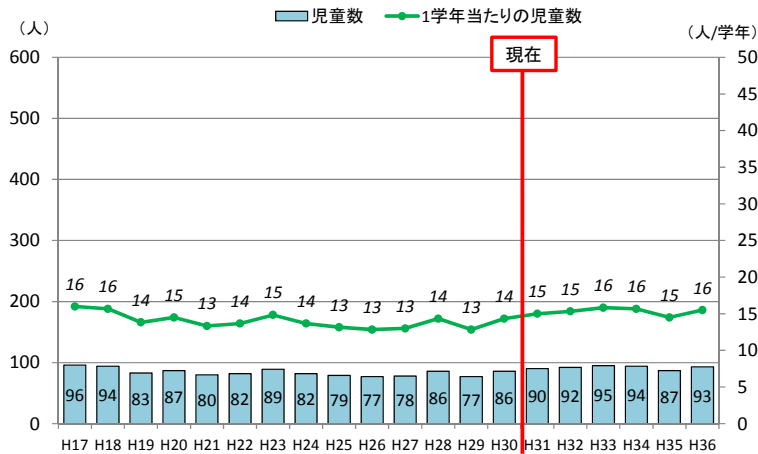
【中根小学校】



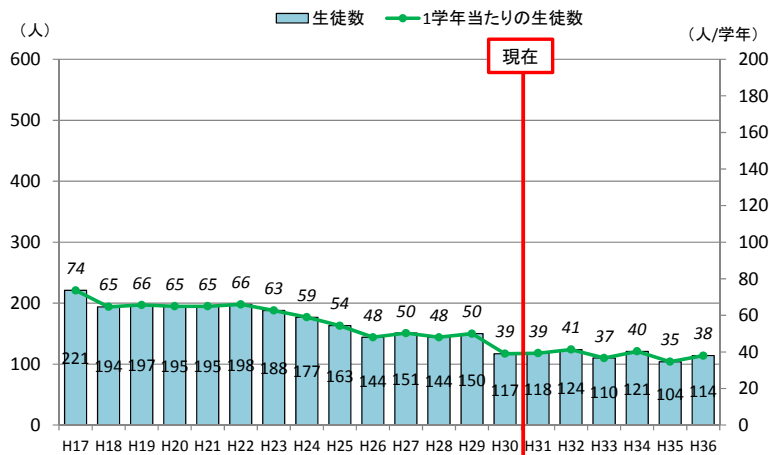
【太東小学校】



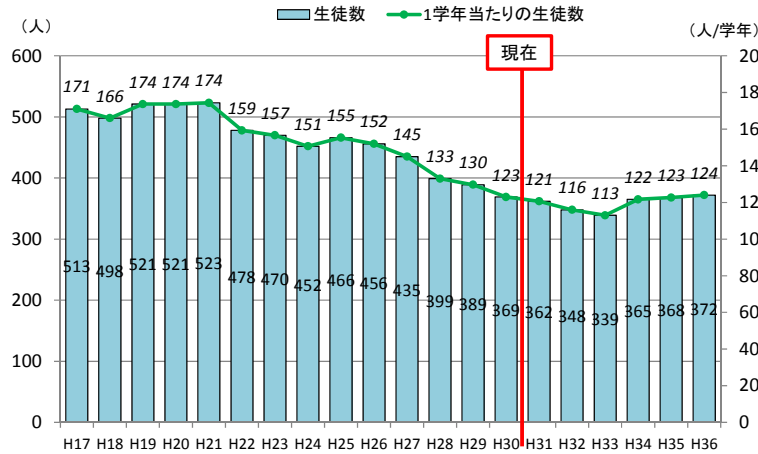
【古沢小学校】



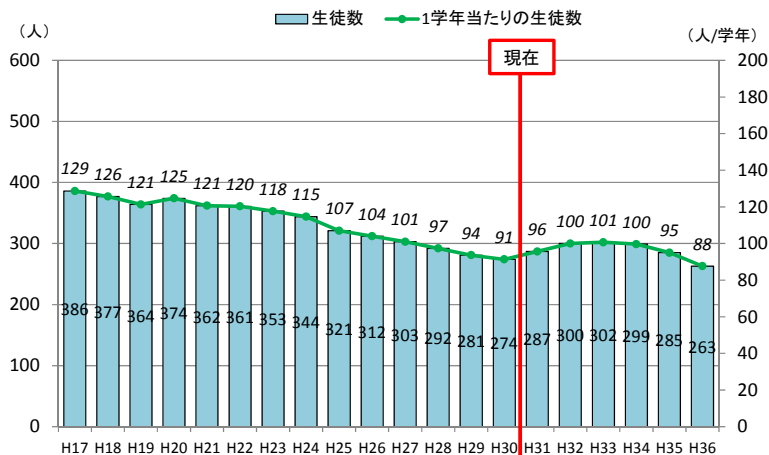
【国吉中学校】



【大原中学校】



【岬中学校】

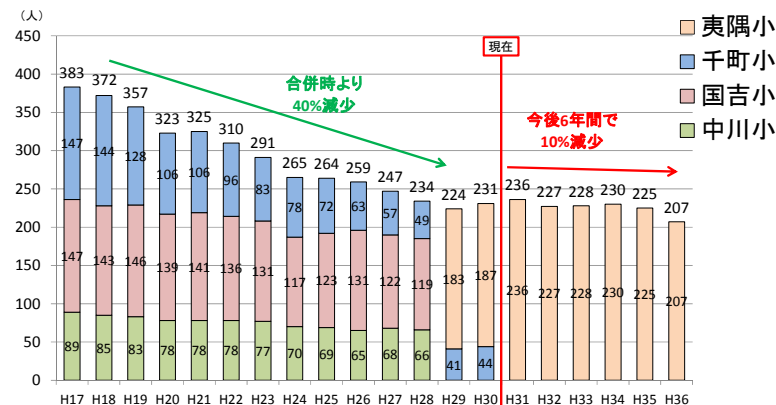




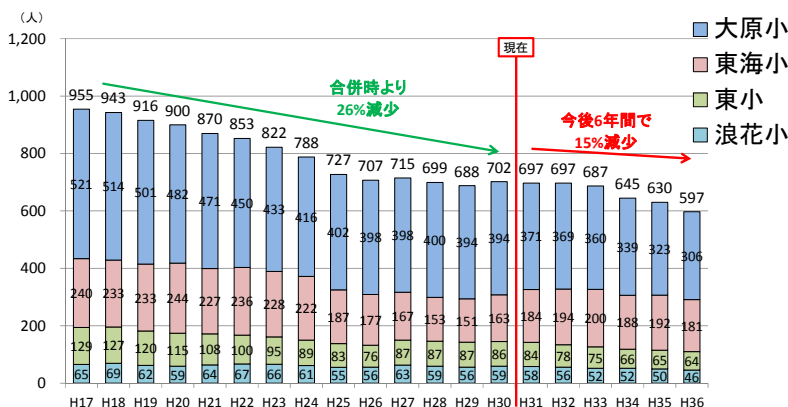
○ 児童生徒数の推移(平成 17 年度から平成 30 年度までの実績、平成 36 年度までの推計)

いずれの地域でもピーク時・合併時より児童生徒数が減少しています。夷隅地域では小学校の統合が進んでいますが、今後も、大原地域(今後6年間で15%減少)や岬地域(今後6年間で14%減少)でも児童数が減少していくことが予想されます。

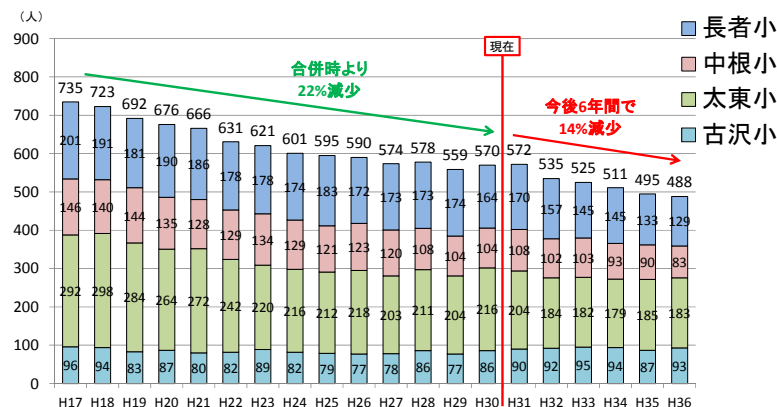
【夷隅地域の小学校】



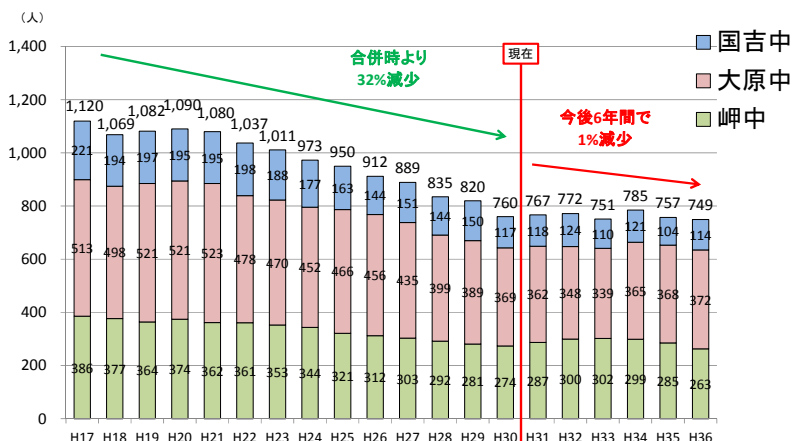
【大原地域の小学校】



【岬地域の小学校】



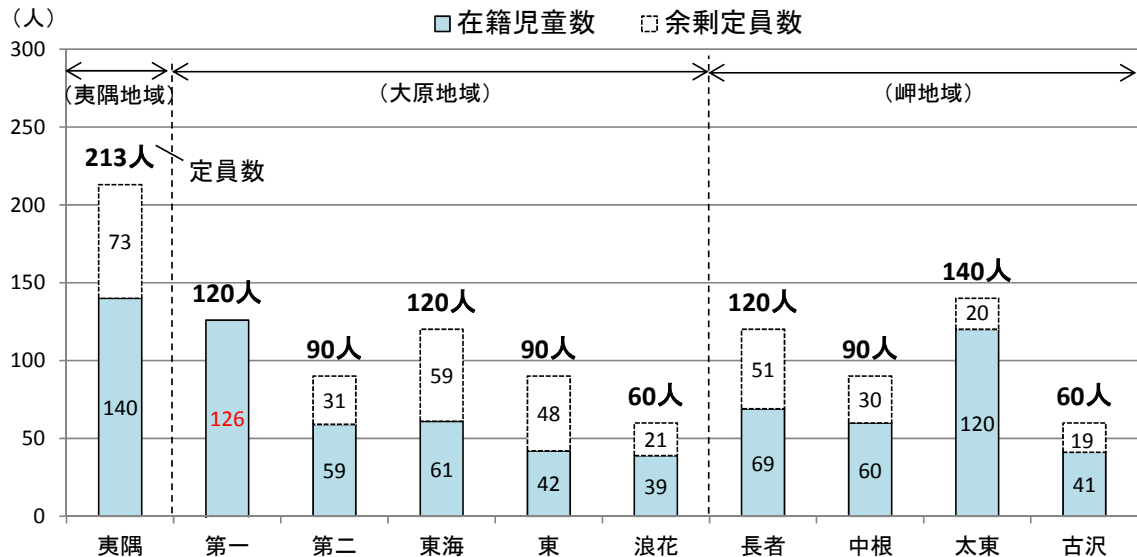
【中学校】



(4) 子育て支援施設（保育所・児童館）

○ 施設ごとの児童数・定員数(平成 30 年度)

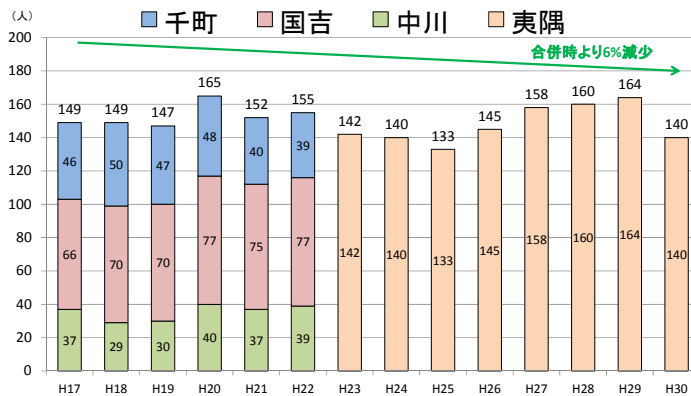
市内保育所の定員は 1,103 人で、在籍児童数は 757 人です。現在、第一保育所では定員数を超過して運営しています。



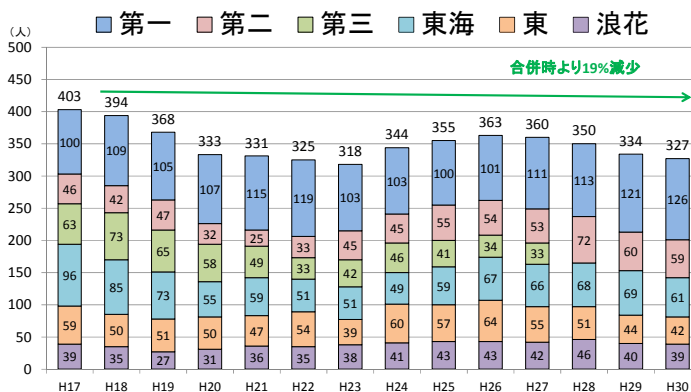
○ 児童数の推移(平成 17 年度～平成 30 年度)

市の年少人口は平成 17 年度から平成 27 年度にかけて 24%減少（国勢調査ベース）しているものの、近年の社会情勢の変化を受け、いずれの地域でも児童数は増加あるいは横ばい傾向にあります。なお、平成 29 年度から平成 30 年度の直近 1 年間に限ると、3 地域共に減少しています。

【夷隅地域の保育所】

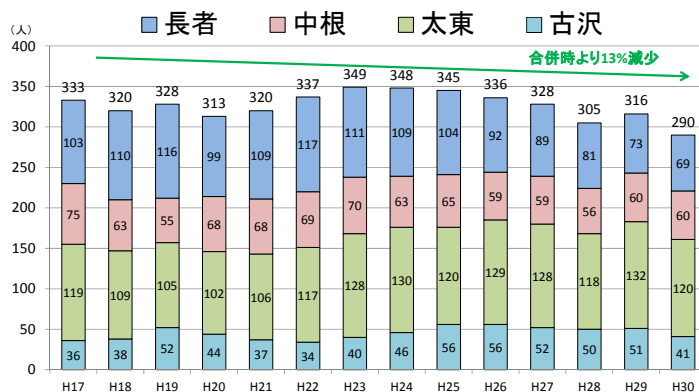


【大原地域の保育所】



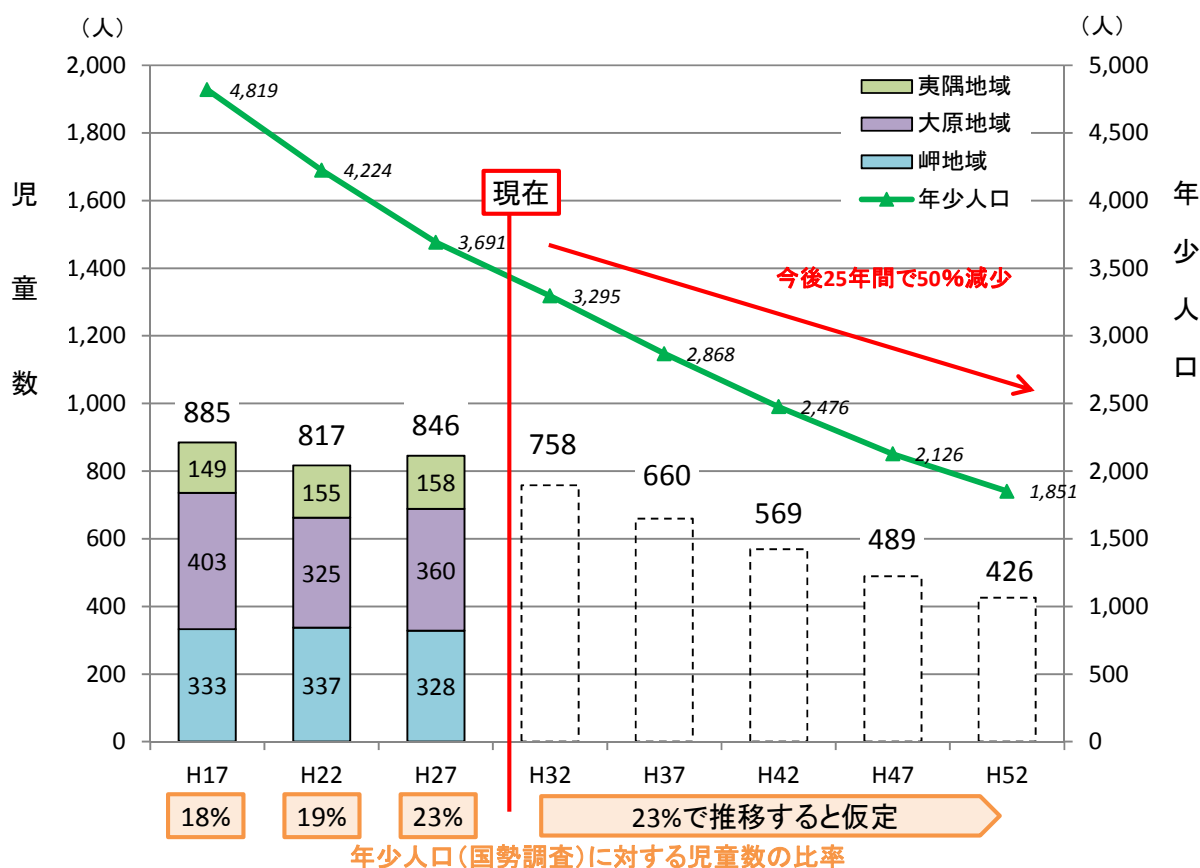
※第三保育所は平成 28 年 4 月 1 日用途廃止

【岬地域の保育所】



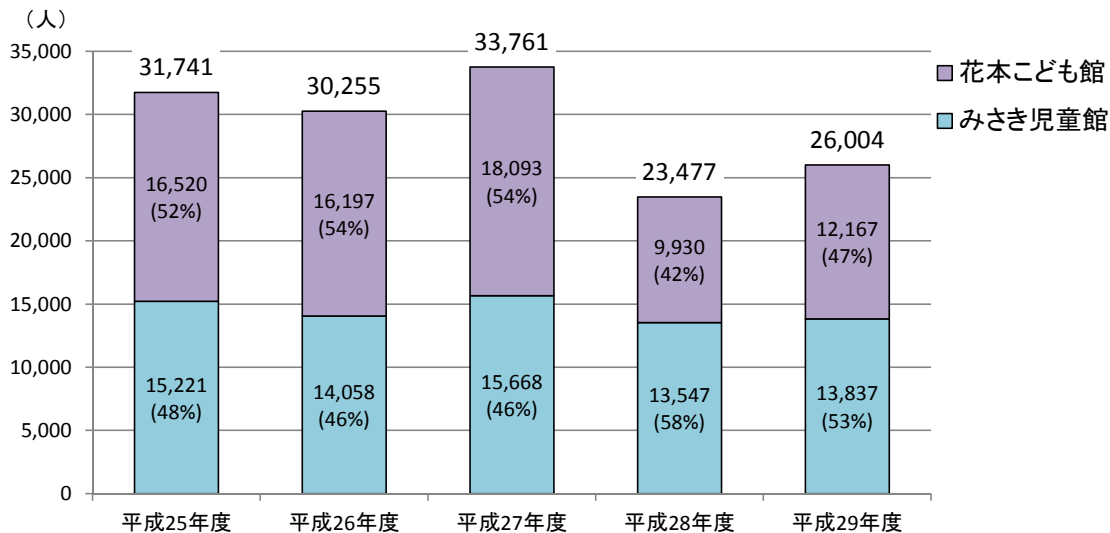
○ 児童数と年少人口の推移(平成 17 年度～平成 27 年度実績、平成 52 年度までの推計)

年少人口は減少傾向にあります。そのうちの保育児童の比率は微増しています。今後も年少人口は減少することが推計されていますが、社会情勢の変化を見ながら、市の子育て政策と合わせた整備方針を立てていく必要があります。



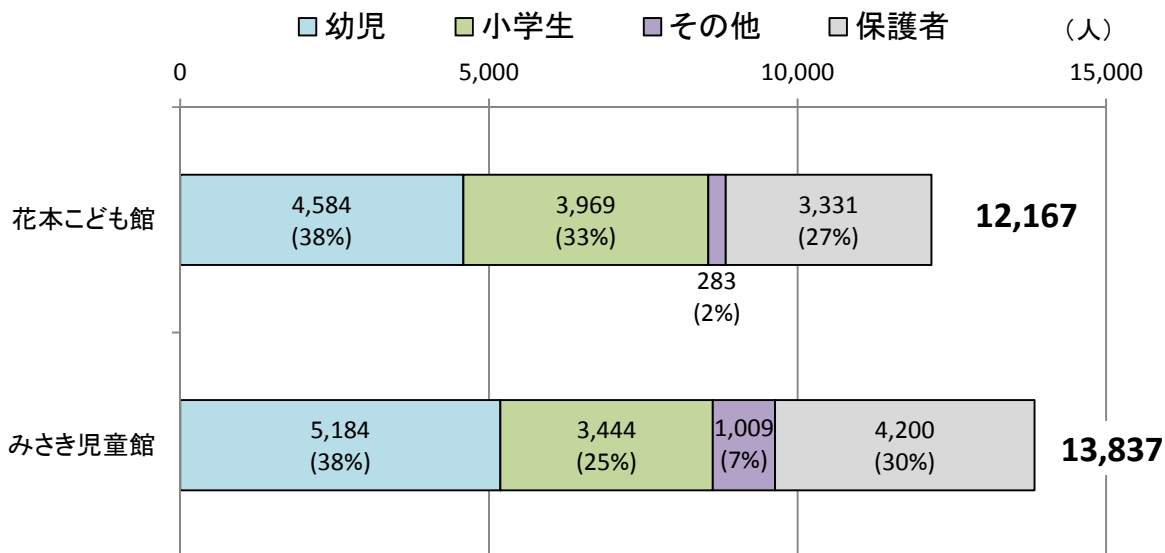
○ 利用者数の推移(平成 25～29 年度)

花本こども館、みさき児童館ともに、平成 27 年度をピークに利用者数は減少しており、平成 29 年度は約 2 万 6 千人の利用となっています。両館の利用状況は年により異なりますが、直近 2 年間はみさき児童館の利用者数の割合がやや高くなっています。



○ 児童館の利用者数内訳(平成 29 年度)

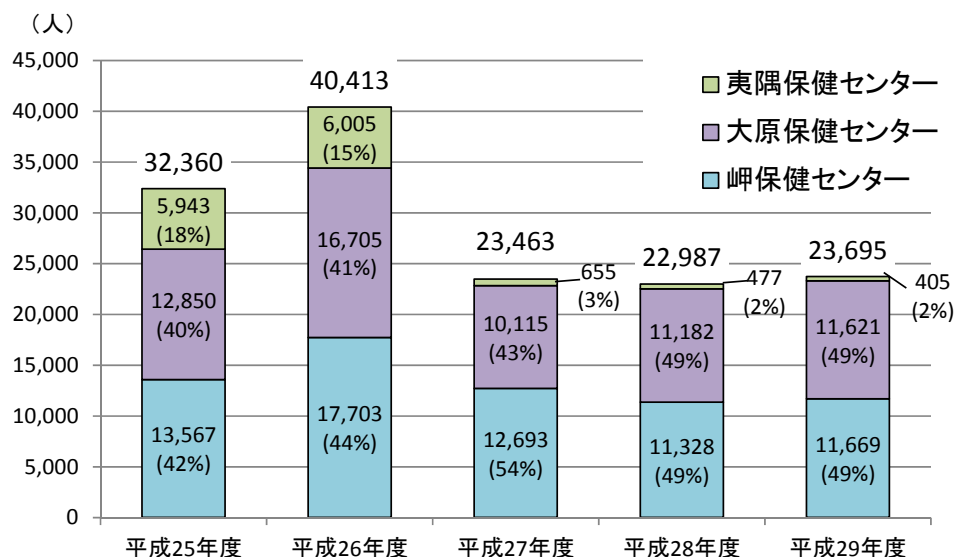
花本こども館の利用者は約 1 万 2 千人、みさき児童館利用者は約 1 万 4 千人です。それぞれ利用者のうち、4 割弱が幼児の利用者となっています。



### (5) 保健福祉施設

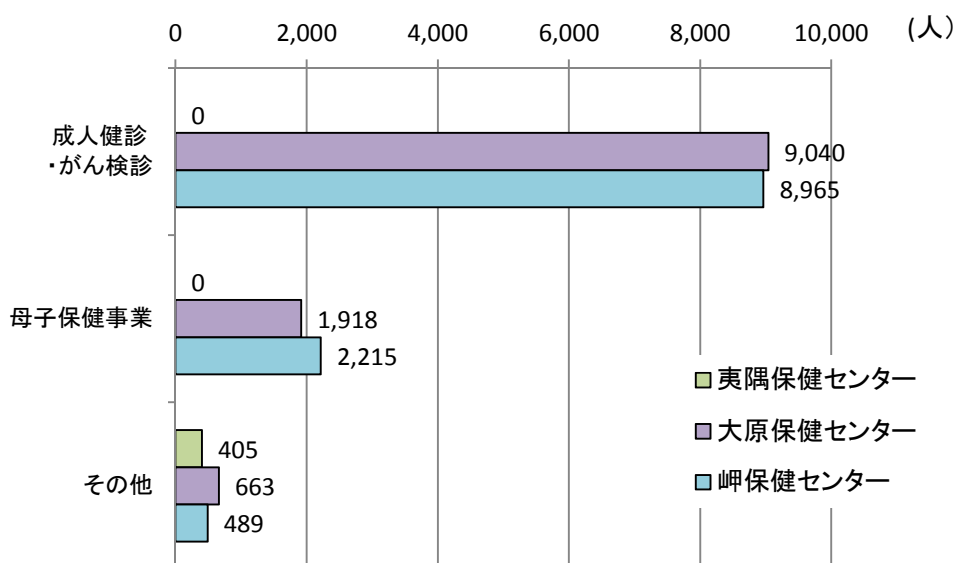
#### ○ 利用者数の推移(平成 25～29 年度)

3施設の利用者の合計は3～4万人前後で推移していましたが、平成27年度より夷隅保健センターの健診業務を夷隅文化会館で行っていることに伴い、利用者数が減少しています。そのほか、成人健診等の利用減少により、大原保健センター、岬保健センターの利用者数も平成26年度から平成27年度にかけて5千人前後減少しました。



#### ○ 事業別利用者数(平成 29 年度)

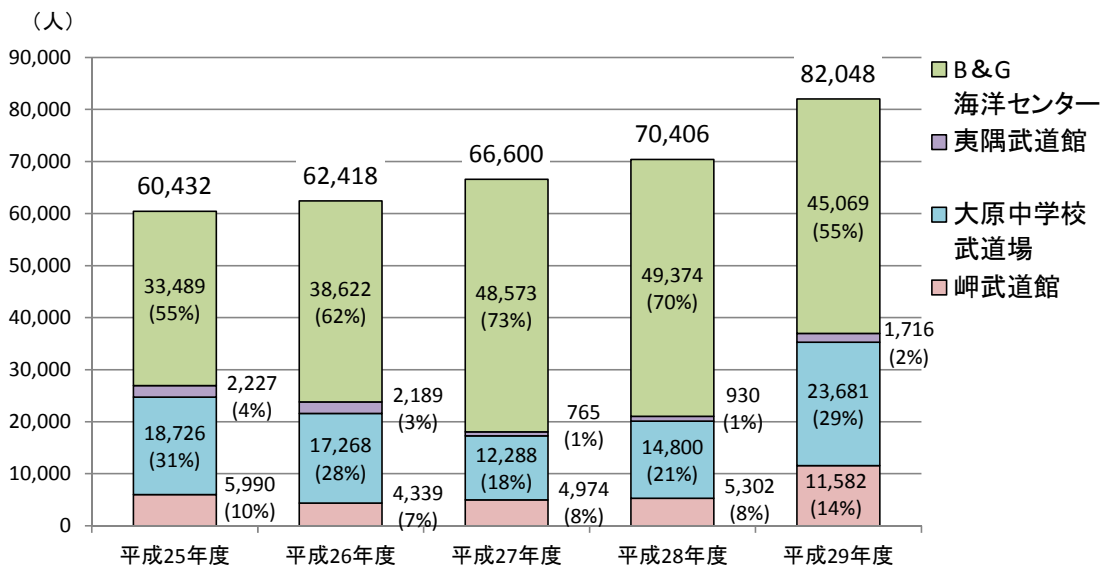
夷隅保健センターの健診・検診業務は夷隅文化会館で行っており、夷隅保健センターの利用は、チャレンジシニア介護予防教室、栄養指導教室、健康教室などに限定されています。



(6) スポーツ・レクリエーション施設

○ 利用者数の推移(平成 25~29 年度)

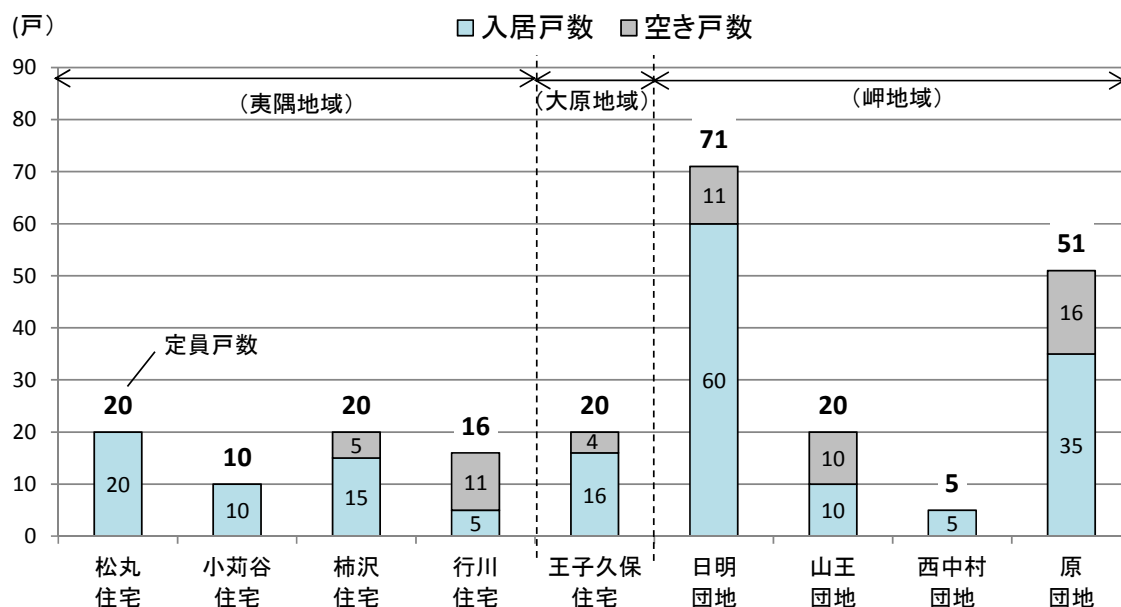
B&G 海洋センターと、夷隅・岬武道館、大原中武道場の利用者数の合計は平成 29 年度 8.2 万人であり、平成 25 年度と比較して 36%増加しています。特に、B&G 海洋センターの利用者は平成 25 年度から平成 29 年度にかけて、約 1 万 2 千人 (35%) 増加しています。



### (7) 公営住宅

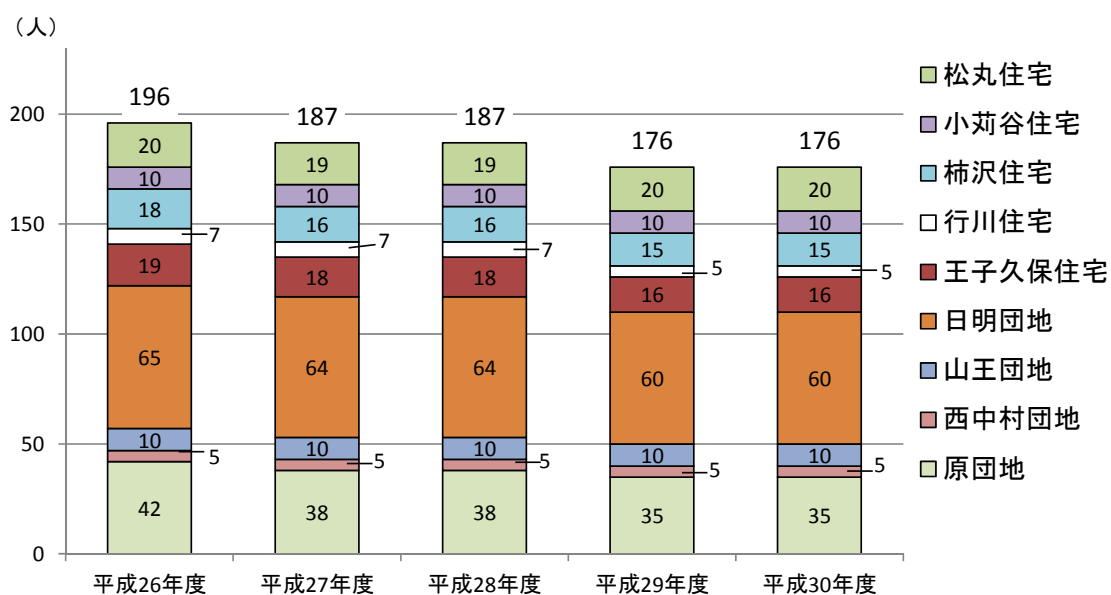
#### ○ 入居状況(平成 30 年度)

9施設の定員戸数233戸のうち176戸(76%)が入居しており、うち日明団地が60戸(34%)、原団地が35戸(20%)を占めています。空き家の多くは政策空き家であり、段階的に建物の削減を進めています。



#### ○ 入居戸数の推移(平成 26~30 年度)

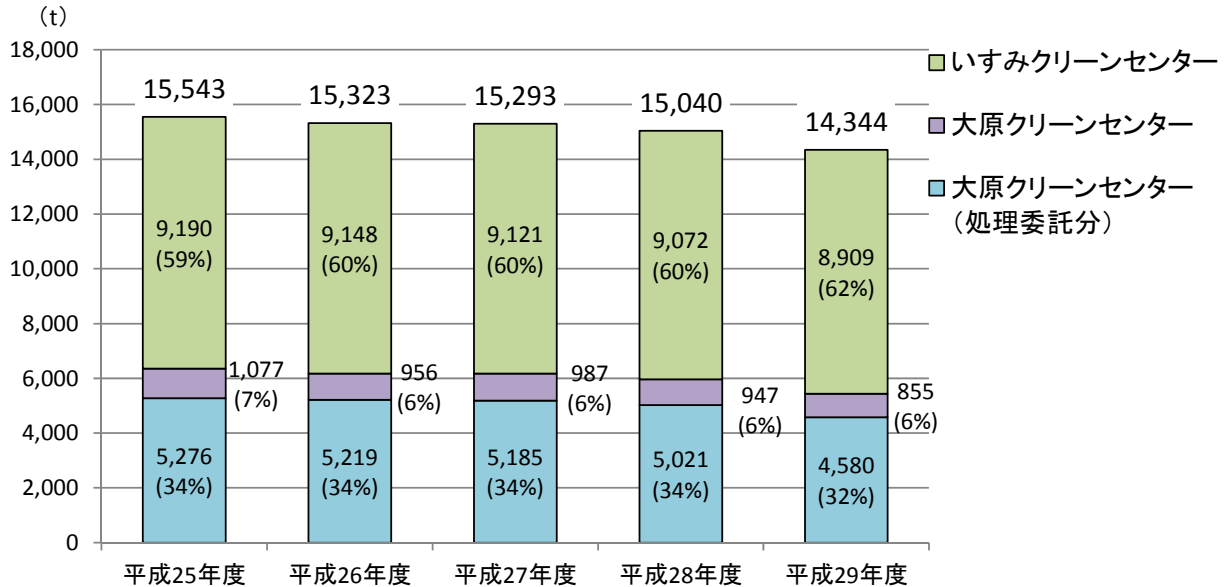
施設の老朽化により、新規の募集を停止していることもあり、徐々に減少しています。



(8) 供給処理施設（廃棄物処理施設）

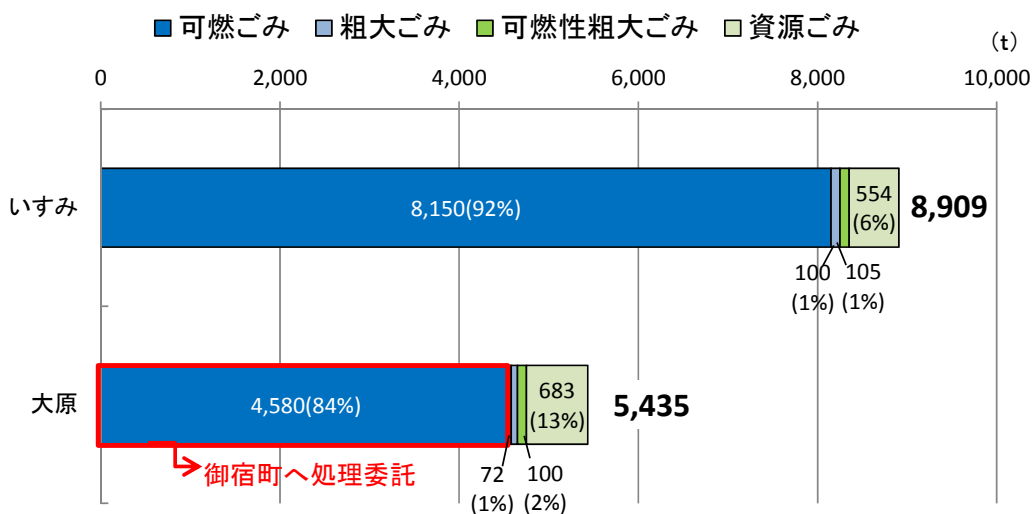
○ 年間搬入量の推移(平成 25～29 年度)

いすみ市内の廃棄物処理は 2 施設と御宿町への処理委託で行っています。直近 5 年間は年間 1 万 4～5 千 t 台の搬入量で、徐々に減少しながら推移しており、5 年間で 8% 減少しています。そのうち、いすみクリーンセンターの搬入量が 6 割前後です。



○ 年間搬入量の内訳(平成 29 年度)

2 施設に搬入される可燃ごみの合計は 14,344t です。大原クリーンセンターに搬入される可燃ごみのうち 84%にあたる 4,580t は御宿町に処理委託しています。粗大ごみや資源ごみの処理は 2 施設で行ってま





### 3. 公共施設利用者アンケート結果

#### (1) 公共施設利用者アンケート結果

本計画策定にあたり、公共施設の利用実態や満足度及び公共施設の見直しについて、公共施設の利用者の考え方を調査するため、公共施設利用者アンケートを実施しました。

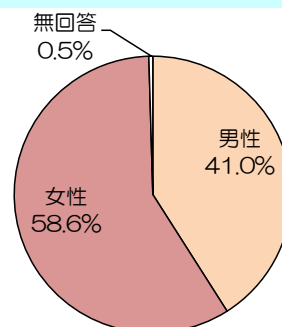
○実施方式	
調査期間	: 平成31年1月4日(金)から平成31年1月31日(木)
調査対象	: いすみ市公共施設の利用者
実施方法	: 夷隅庁舎、大原庁舎、岬庁舎、夷隅文化会館、大原文化センター及び岬公民館に、アンケート調査票・回収箱を設置。
有効回収数	: 222件

※百分比(%)は、少数点第二位で四捨五入し、小数点第一位までを算出したため、比率の合計値が100%にならない場合があります。

#### <回答者の属性>

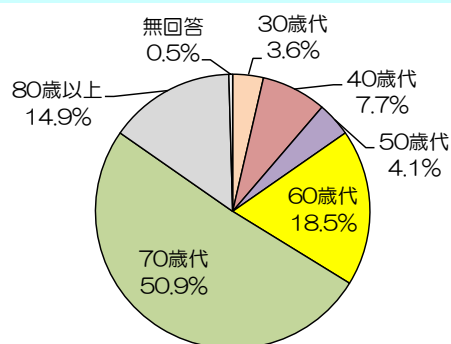
##### 問1 性別

	回答者数	構成比
男性	91	41.0%
女性	130	58.6%
無回答	1	0.5%



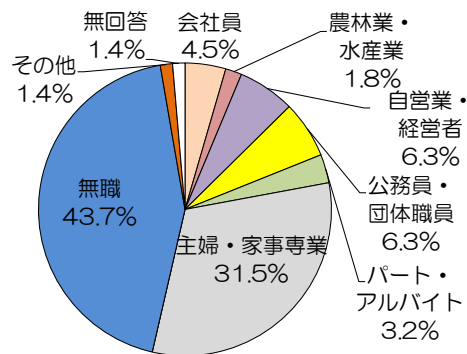
##### 問2 年齢

	回答者数	構成比
10歳代	0	0.0%
20歳代	0	0.0%
30歳代	8	3.6%
40歳代	17	7.7%
50歳代	9	4.1%
60歳代	41	18.5%
70歳代	113	50.9%
80歳以上	33	14.9%
無回答	1	0.5%



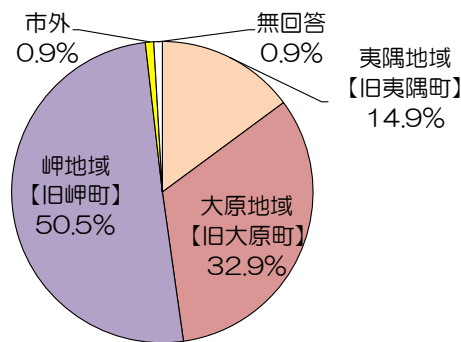
問3 職業

	回答者数	構成比
会社員	10	4.5%
農林業・水産業	4	1.8%
自営業・経営者	14	6.3%
公務員・団体職員	14	6.3%
パート・アルバイト	7	3.2%
主婦・家事専業	70	31.5%
学生	0	0.0%
無職	97	43.7%
その他	3	1.4%
無回答	3	1.4%



問4 居住地

	回答者数	構成比
夷隅地域【旧夷隅町】	33	14.9%
大原地域【旧大原町】	73	32.9%
岬地域【旧岬町】	112	50.5%
市外	2	0.9%
無回答	2	0.9%

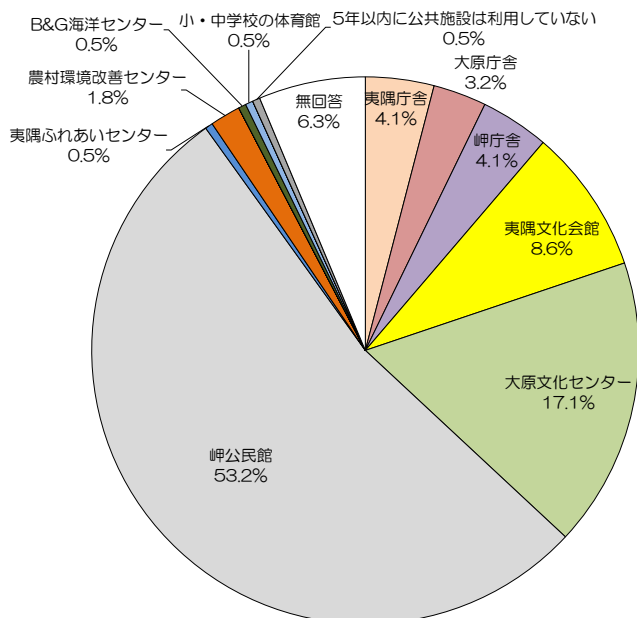


<施設の利用状況>

問5 公共施設で、どこの施設を主に利用するかお聞かせください。主に利用する施設1つを○で選んでください。

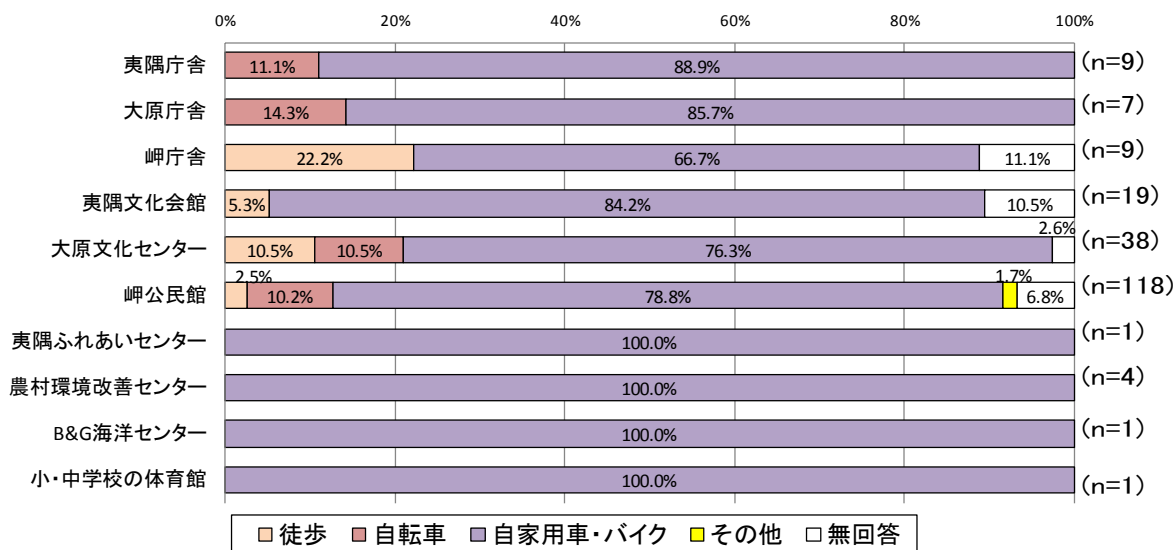
- ・岬公民館が53.2%と一番多く、次いで大原文化センター17.1%、夷隅文化会館8.6%の順となりました。3つの庁舎は3~4%にとどまりました。
- ・回答者の居住地の構成比を反映していると考えられます。

	回答者数	構成比
夷隅庁舎	9	4.1%
大原庁舎	7	3.2%
岬庁舎	9	4.1%
夷隅文化会館	19	8.6%
大原文化センター	38	17.1%
岬公民館	118	53.2%
夷隅ふれあいセンター	1	0.5%
農村環境改善センター	4	1.8%
岬ふれあい会館	0	0.0%
夷隅地区多目的研修センター	0	0.0%
B&G海洋センター	1	0.5%
小・中学校の体育館	1	0.5%
その他市内施設	0	0.0%
5年以内に公共施設は利用していない	1	0.5%
無回答	14	6.3%



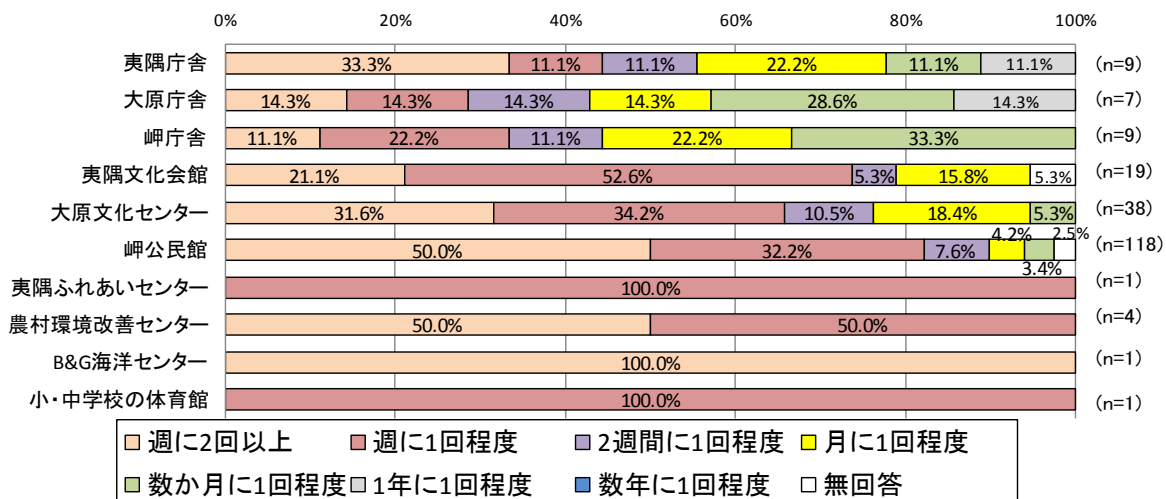
問6 問5の施設までの主な交通機関をお聞かせください。

- いずれの施設も「自家用車・バイク」が一番多い割合を占めています。



問7 問5の施設の利用頻度をお聞かせください。

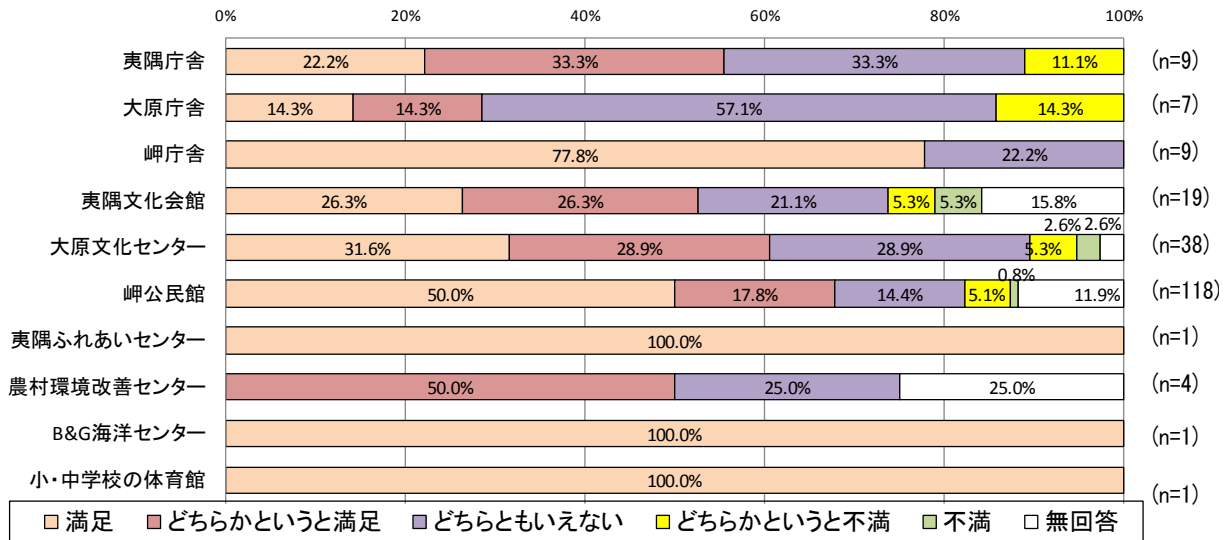
- 夷隅文化会館、大原文化センター、岬公民館については、「週2回以上」「週1回以上」の利用頻度の人が合計で、6割～8割となっています。



問8 問5の施設利用の満足度についてお聞かせください。

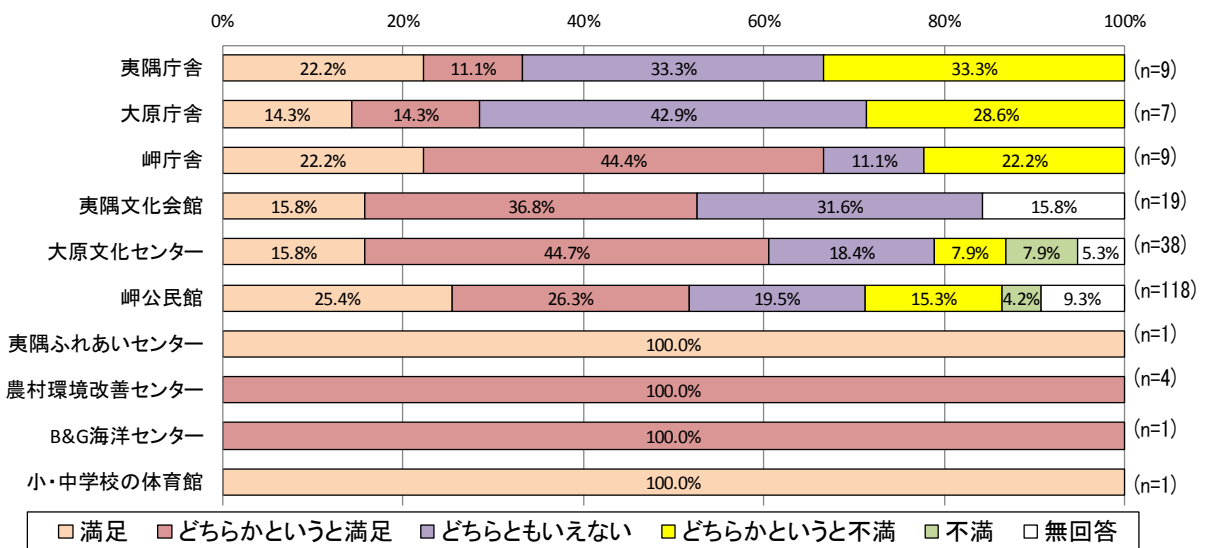
(交通アクセス)

- ほとんどの施設で「満足」又は「どちらかという満足」という回答が合計で5割を超えていますが、大原庁舎のみ、合計で28.6%にとどまっています。



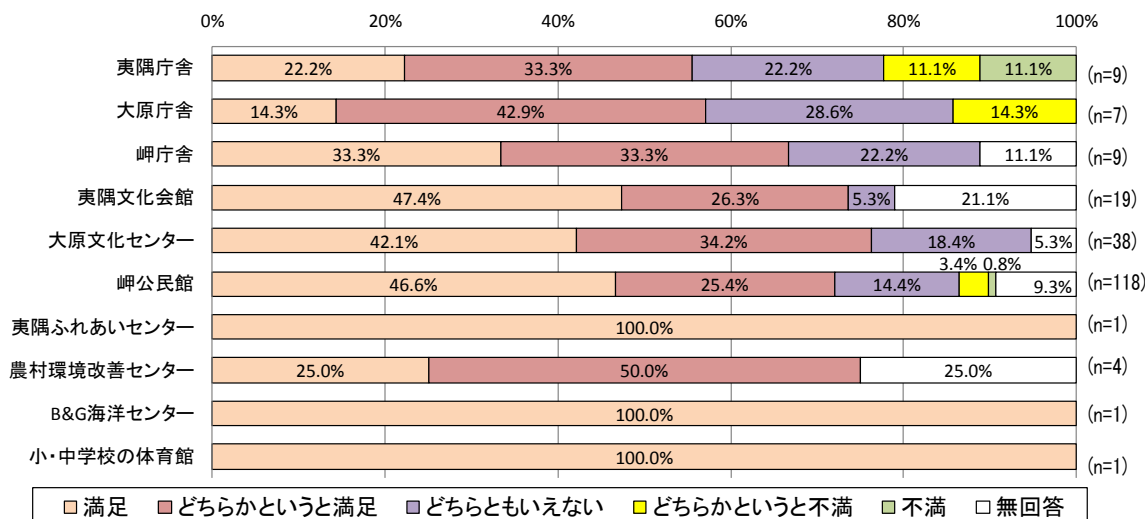
(施設の機能や設備)

- 夷隅庁舎、大原庁舎については、「満足」又は「どちらかという満足」の割合が合計で3割程度にとどまっていますが、それ以外の施設は5割を超えています。



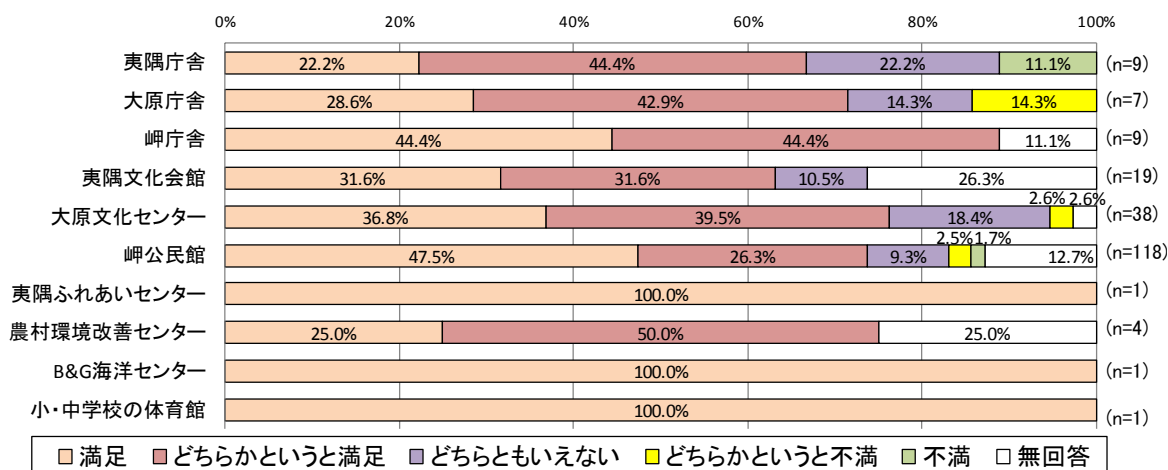
(窓口の手続き)

- すべての施設で「満足」又は「どちらかという満足」の割合が合計で5割を超えています。



(開庁時間)

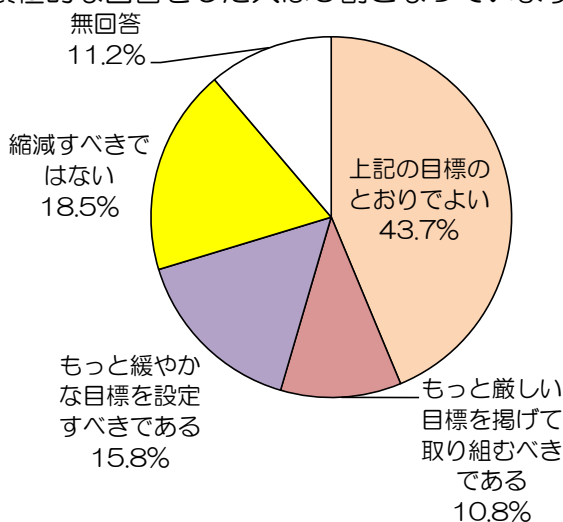
- すべての施設が「満足」又は「どちらかという満足」の割合が合計で6割を超えています。



＜市の公共施設の今後の在り方＞

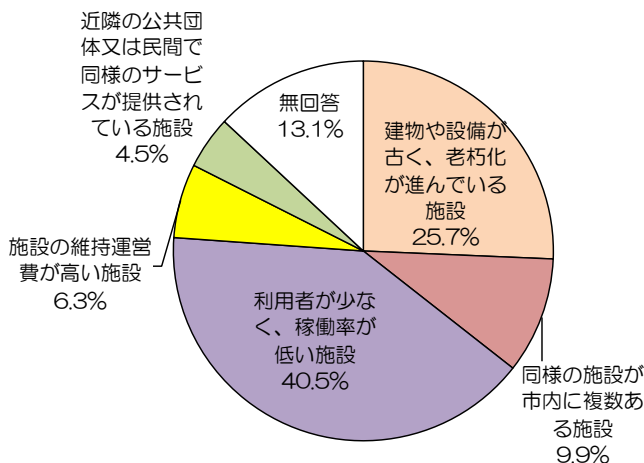
問9 いすみ市では、平成28年度にいすみ市公共施設等総合管理計画を策定し、今後40年間で公共施設の総延床面積を30%縮減することを目標としています。あなたはこの縮減についてどのように思いますか。

- 「上記の目標のとおりでよい」との回答が43.7%で一番多くなっており、「もっと厳しい目標を掲げて取り組むべきである」との回答の10.8%と合わせると、公共施設の総延床面積の縮減について積極的な回答の割合は5割を超えています。
- 一方、「縮減すべきでない」との回答は18.5%で、2番目に多い回答となっています。
- いすみ市公共施設等総合管理計画策定時に実施した市民アンケート（P104参照）では、公共施設のあり方を見直すべきかどうかという問いに対して、9割以上の方が、「積極的に見直すべきである」、「今後の状況を見直したほうがよい」と回答しましたが、今回の利用者アンケート調査の結果では、公共施設見直しについて積極的な回答をした人は5割となっています。



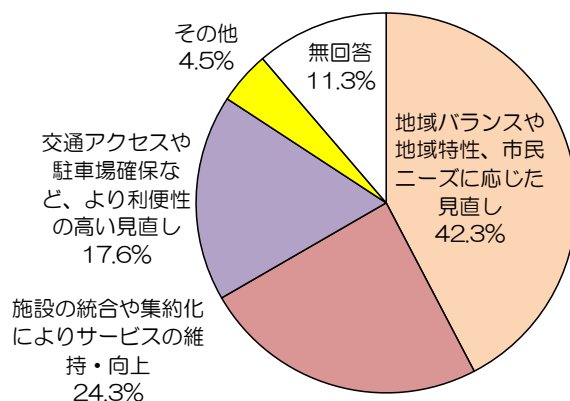
問10 将来的に公共施設を減らしていく場合、どのような公共施設から見直しを行えばよいと考えますか。優先度の高いものを1つ選んでください。

- 「利用者が少なく、稼働率が低い施設」との回答が40.5%と一番多く、次いで「建物や設備が古く、老朽化が進んでいる施設」が25.7%となっています。
- いすみ市公共施設等総合管理計画策定時に実施した市民アンケート（P104参照）では、「利用者が少ない施設」が1番多く、次いで「建物や設備が老朽化している施設」との回答が多くなっており、今回の利用者アンケートの結果も同様の傾向がみられます。



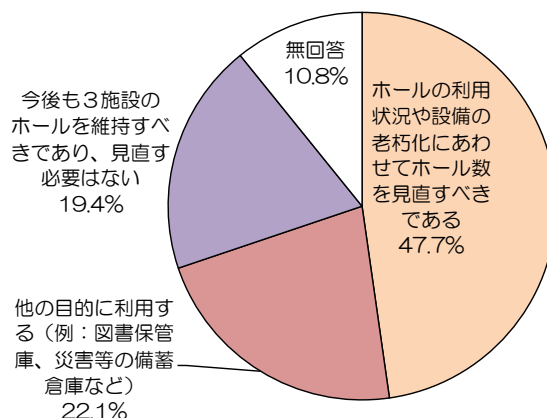
問 1 1 将来的に公共施設を見直す場合、どのような点を重要視すべきと考えますか。

・「地域バランスや地域特性、市民ニーズに応じた見直し」との回答が42.3%と一番多く、次いで、「施設の統合や集約化によりサービスの維持向上」24.3%、「交通アクセスや駐車場確保など、より利便性の高い見直し」17.6%の順となっています。



問 1 2 市内には、3つのホール（夷隅文化会館、大原文化センター、岬ふれあい会館）があります。今後、施設や設備等の老朽化等により3施設のホールをそのまま更新すると多額の費用が発生することが想定されます。ついては、ホールの在り方についてお聞きします。あてはまるものについて、1つ選んでください。

- ・「ホールの利用状況や設備の老朽化にあわせてホール数を見直すべきである」との回答が47.7%と、5割近くを占めています。
- ・次いで、「他の目的に利用する（例：図書保管庫、災害等の備蓄倉庫など）」が22.1%、「今後も3施設のホールを維持すべきであり、見直す必要はない」19.4%となっています。



## (2) 公共施設利用者アンケート結果の概要

### ①公共施設の利用状況・満足度等

結果と考察
<p>主に利用する施設としては、岬公民館が5割、大原文化センターが2割、夷隅文化会館が1割弱という結果となっています。</p> <p>→回答者の居住地の構成比を反映しているものと考えられます。</p>
<p>主に利用する施設までの主な交通機関としては、いずれの施設でも「自家用車・バイク」が6～8割以上となっています。</p> <p>→現状のアクセスは自家用車等に依存している状況が伺えます。</p>
<p>主に利用する施設の利用頻度については、特に岬庁舎、夷隅文化会館、大原文化センター、岬公民館については、「週1回以上」の利用頻度の人々が5割以上となっています。</p> <p>→各施設を利用している人の利用頻度は比較的高くなっており、リピート率が高いことが伺えます。</p>
<p>主に利用する施設の満足度については、「交通アクセス」、「施設の機能や設備」、「窓口の手続き」、「開庁時間」の各項目において、大半の施設が「満足」又は「どちらかという満足」の合計が約5割を超えていますが、大原庁舎の「交通アクセス」、夷隅庁舎・大原庁舎の「施設の機能や設備」については、その割合が3割程度となっています。</p> <p>→夷隅庁舎、大原庁舎等での交通アクセスや機能・設備面での改善の余地があることが伺えます。</p>

### ②公共施設の見直しについて

結果と考察
<p>公共施設の総延床面積を30%削減することについては、「目標のとおりでよい」との回答が5割弱で、一番多く、次いで「縮減すべきではない」は2割弱となっています。</p> <p>→目標設定についての一定の理解が得られていると考えられますが、「縮減すべきではない」との意見に対して、将来の人口規模に合わせた施設の適正配置や施設規模の適正化について理解を得る必要があります。</p>
<p>どのような公共施設から見直しを行えばよいかという問いについては、「利用者が少なく、稼働率が低い施設」との回答が4割で一番多く、次いで、「建物や設備が古く、老朽化が進んでいる施設」が3割弱となっています。</p> <p>→公共施設の見直しにおいて、稼働率、老朽化といった観点が必要であることが伺えます。</p>
<p>将来的に公共施設を見直す場合、どのような点を重要視すべきかという問いについては、「地域バランスや地域特性、市民ニーズに応じた見直し」との回答が4割と一番多く、次いで「施設の統合や集約化によりサービスの維持向上」が2割強、「交通アクセスや駐車場確保など、より利便性の高い見直し」が2割弱となっています。</p> <p>→地域バランスや地域特性、市民ニーズといった視点とともに、施設の統合・集約化や利便性の向上等の視点も重要であることが伺えます。</p>
<p>3つのホールの在り方についての問いについては、「ホールの利用状況や設備の老朽化にあわせてホール数を見直すべきである」との5割近くとなっている一方で、「今後も3施設のホールを維持すべきであり、見直す必要はない」との回答は2割弱となっています。</p> <p>→多くの方がホール数やホール機能の見直しを考えていることが伺えます。</p>



## ③自由記述について

**結果と考察**

自由回答では、ホールなどの機能の統廃合について行うべきといった意見があった一方で、高齢化が進む中、公共交通機関等によるアクセスの確保が必要との意見もありました。

また、図書室について、蔵書の充実やインターネットによる検索・予約等、機能充実に関する意見が多くありました。

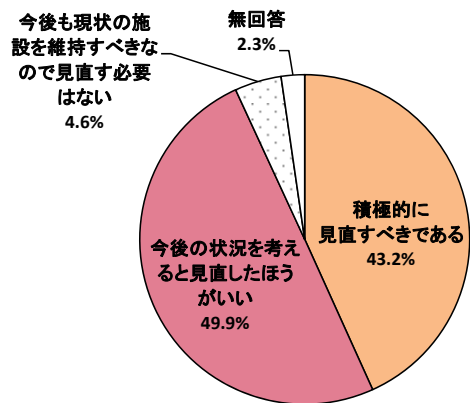
(参照) いすみ市公共施設等総合管理計画 第5章 市民アンケート結果 (抜粋)

○実施方式

調査期間	: 平成28年9月1日(木)から平成28年9月30日(金)
調査対象	: 平成28年8月1日時点において、18歳以上のいすみ市民2,000名
実施方法	: 郵送による無記名アンケート調査方式
有効回収数	: 784件(有効回収率39.2%)

(問) 今後、人口減少や少子高齢化が進展する中で、公共施設のニーズが変化することが想定されます。そのような将来を見据えて公共施設のあり方を見直すことについて、あなたはどのように考えますか。

- ・「積極的に見直すべきである」、「今後の状況を考えると見直した方がいい」と回答した人がそれぞれ4割以上となりました。
- ・「今後も現状の施設を維持すべきなので見直す必要はない」と回答した人は5%未満でした。



(問) 市の公共施設は老朽化に伴い、改修や建替えの時期が今後集中することが予測されています。そのような中で公共施設の見直しを行う場合、あなたはどのような施設から見直していくべきだとお考えですか。○で3つまで選んでください。

- ・「利用者が少ない施設」と回答した人が63.0%で最も多く、次いで「建物や設備が老朽化している施設」、「市内に同様の施設が複数ある施設」と回答した人が多く4割を超えました。
- ・「交通の便が悪い施設」と回答した人は15.6%と選択肢の中では最も少ない回答でした。

